

# 主体的・協働的学びによるコミュニケーション能力の育成

能代市立湊城西小学校 教諭 佐藤 弘

## 1 はじめに

本校は昨年度から拠点校・協力校英語授業改善プログラムの拠点校に指定され、指導者の英語授業力向上・校種間の連携に取り組むとともに、コミュニケーション能力の育成を研究主題に掲げ、児童の英語による言語活動の増加にも取り組んできた。昨年度は6年担任として、今年度は研究主任・JTEとして関わった授業の中から、児童の英語による言語活動を中心とした活動事例をいくつか紹介する。

## 2 活動の実際

### (1) H27年度の実践から

#### ①Final task を意識した授業展開

- ・ 学年 6年
- ・ 単元 Hi, friends! 2 / Lesson 6 What time do you get up?
- ・ 指導者 HRT : 佐藤 弘, ALT : Tina Soukhanouvong



〈グループでタスク達成を目指す〉

授業のはじめに final task を示し、英語を話す目的意識をもたせるようにしている。この授業では、「グループでビンゴカードを完成させよう」という final task を設定した。最初に動作や時間を尋ねる表現に慣れ親しむ活動をした後、その表現を使って友達に質問し、その答えを基にビンゴカードを埋めていく。グループにすることで話すことに自信がない児童も安心して活動でき、また仲間のために必要感をもって活動をさせることができた。

### (2) H28年度の実践から

#### ①英語で会話をつなぐスキルを育てる

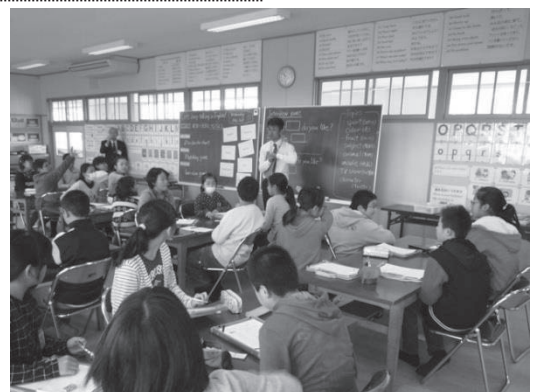
- ・ 学年 5・6年
- ・ 単元 Let's keep talking in English! (自作単元)
- ・ 指導者 JTE : 佐藤 弘

Me too.や I see.など、会話をつなぐ簡単な表現を身に付けさせるために、5・6年の各学級で行った。

〈授業の流れ〉

- ・ 会話をつなぐ表現の導入
- ・ 表現に慣れ親しむ活動 (Matching Game)
- ・ 表現を使ったコミュニケーション活動 (Interview Game)

また黒板の上の壁にはクラスルームイングリッシュを掲示し、授業の中で児童と指導者が日常的に活用できるようにしている。



〈児童も指導者も All English に挑戦〉

## ②留学生や学生の活用

- ・学年 5年
- ・単元 Hi, friends! 1 / Lesson 8 I study Japanese.
- ・指導者 HRT : 菊池 和美, ALT : Tina Soukhanouvong



〈国際教養大学の留学生や学生と交流〉



〈言葉だけでなく実物も使って説明〉

- 5 本時の実際  
 (1) ねらい 外国の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違点を知る。  
 (言語や文化に対する気付き)  
 (2) 学習過程 (3/5) (◎コミュニケーションに関わる教師の支援)

学習活動 <形態>	時間	教師の関わり (・支援)		評価
		HRT	ALT	
〈Opening〉 1 あいさつをする。 <一斉〉 ・ "How are you?" "I'm fine/great/OK." ・ "It's Friday." ・ "It's sunny/cloudy/rainy."	2	・ 楽しい雰囲気全員が繰り返しあいさつできる場面を設定する。	・ HRT や子どもたちとコミュニケーションをとりながらあいさつをする。	
〈Warm up〉 2 Today's Goalをつかむ。 <一斉〉 留学生のみなさんと会話をして、外国の学校生活について知ろう。	5	・ AIUの学生の皆さんを紹介し、外国人留学生の出身国や日本人学生の留学先を伝えたり、地図でその国の位置を確認したりして、児童の活動への意欲を高める。		
3 チャンツをする。 <一斉〉 ・ 留学生の出身国や留学先の国名でチャンツをする。(チャチャチャ・チャンツ) 【扱う国名】 America / Thailand / Myanmar / Netherlands / Slovenia	3	・ 絵カードを見せながら一緒に言う。 ・ 留学生も交え、楽しい雰囲気始めることができるようにする。	・ 国名の発音の見本を示す。	
〈Activity〉 4 日本と外国の学校生活について、留学生と話し合う。 <グループ〉 ・ 6つのグループに分かれ、知っている表現を使って学校生活について留学生と話し合う。 ・ まず小学校で学んでいる教科について尋ね、その他児童の関心に応じて自由に質問をする。 (例) ・宿題 ・給食 ・休日 ・そうじ 等 【本時で想定される表現】 ・ I study ~. ・ Do you ~? / What do you study ~? ・ How about ~ / you / in ~? ・ Me too. / I see. / Oh, you do. / Sounds good. Pardon? / Once more, please. / Really? ... 【これまでHi, friendsで扱った表現】 ・ My name is ~ / Nice to meet you. ・ How are you? / I'm ~. ・ How many ~? ・ Do you like ~? / Yes, I do. / No, I don't. ・ What ~ do you like? / I like ~.	30	◎ 自信をもって話すことができるように、分かりやすいデモンストレーションをする。 ・ 留学生にも児童に質問してもらい、児童からの一方的な会話にならないようにする。 ・ 活動を二つに分け、前半は単語だけの表現も許容し、表情やジェスチャーも使って相手に伝えられるよう励ます。 ・ 分からなかった言葉や英語で言いたい表現をALTと確認し、グループを入れ替えて後半の活動を行う。	◎ グループを回り、自信のない児童と一緒に話したり、うまく会話が続かないグループのコーディネートをしたりする。	◎ 聞き取れない児童やどう話せばよいか分からないう児童を支援し、積極的な会話を促す。
留学生との会話を通して、外国の小学校と自分の学校生活の共通点や相違点に気付いていく。 (観察・シート)				
〈Closing〉 6 本時の活動を振り返る。 <個→ペア→一斉〉	4	・ 積極的に英語を使おうとする態度や留学生と関わっている姿で、よかった点を賞揚する。 次回、本時で分かったことを取り入れて時間割を作ってもよいことを知らせ、意欲を喚起する。		
7 終わりのあいさつをする。 <一斉〉 ・ "Thank you so much." ・ "See you next week."	1			

「外国の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違点を知る」ことをねらいとし、国際教養大学の外国人留学生・留学経験のある日本人学生と交流する活動を行った。児童を6つのグループに分け、グループごとに自分たちの学校生活を留学生に紹介したり、相手の国や留学先の学校生活の様子について質問をしたりした。5年生は使える表現が少ないので、実物やジェスチャーを使って表現させたり、また留学生にも簡単な表現で質問をしてもらったりすることで、双方向のコミュニケーションを体験させることができた。

### 【ノンネイティブの活用について】

外国語指導では、ネイティブスピーカーであることが注目されがちだが、「コミュニケーション能力の素地を養う」ことをねらいとした小学校外国語活動において、相手がネイティブであるかどうかはあまり重要ではないと考える。むしろノンネイティブのたくさんの国の人たちとも英語を通じてコミュニケーションができるという体験をすることが、子どもたちが英語の必要性を実感し、意欲的に学んでいくことにつながるのではないだろうか。国際教養大学では地域貢献の理念のもと一般の小学校でも活用することができる様々な事業を設けており、この授業も同大学の留学生との国際交流事業を活用したものである。

### ③ ロールプレイを中心とした単元構成

- ・ 学年 6年
- ・ 単元 Hi, friends! 2 / Lesson 5 Let's go to Italy.
- ・ 指導者 HRT : 大高 玲子, ALT : Tina Soukhanouvong

5 本時の実際  
 (1) ねらい おすすめの国について、積極的に紹介したり、聞いたことに反応したりする。  
 (2) 学習過程 (4 / 4) (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)  
 (◎コミュニケーションに関わる教師の支援)

学習活動 <形態>	時間	教師の関わり (・支援) 評価	
		HRT	ALT
(Opening) 1 あいさつをする。 <一斉> ・ “How are you?” “I’m fine/great/OK.” ・ “It’s Friday.” ・ “It’s November 11th.” ・ “It’s sunny/cloudy/rainy.”	3	・ 楽しい雰囲気全員が繰り返しあいさつできる場面を設定する。	・ HRT や子どもたちとコミュニケーションをとりながらあいさつをする。
(Warm up) 2 チャンスをやる。 <一斉> Let’s go to Japan!	3	・ 写真を見せて日本の食べ物や見所を示しながら意欲付けを図る。	・ チャンスがスムーズに行えるように、特色を紹介する言い方を示す。
3 Today’s Goalをつかむ。 <一斉> おすすめ国について紹介したり、ずねたりして、自分の旅行プランを作る。	2	・ ゴールへの見通しをもつことができるように活動の流れを確認する。	
(Activity) 4 おすすめの国を紹介し合い、友達がおすすめしてくれた国の中から、自分の旅行プランを作る。 <コーナー交流> 店: “Hello.” 客: “Hello.” 店: “Welcome to the ~ corner. You can eat ~. Do you like ~?” 客: “Yes, I do. I like ~.” ... 店: “What do you want to eat?” 客: “I want to eat ~.” ... 店: “This is your plan. Here you are.” 客: “Thank you, see you.”	25	◎ 自信をもって話すことができるように、デモンストレーションをする。 ◎ コーナーを回り、積極的にやり取りするように、客側を促したり、既習表現を使っている場面をほめたりする。 ・ 選んだカードを貼って旅行プランを作るよう、シートを準備する。	◎ 積極的なやり取りになるように、客側と一緒に説明を聞いて反応したり、質問をしたりする。 ・ 言い方が分からず受け答えに困っている児童に助言をする。
5 作った旅行プランを紹介する。 <グループ> ・ “Where do you want to go?” ・ “I want to go to ~. I want to eat ~. I want to see ~. I want to go to ~.”	8	・ グループを回り、自分の作ったプランを示しながら自信をもって紹介できるように声をかける。 ・ 一方的な伝え合いにならないように、指導者も一緒に紹介を聞いて反応したり聞き返したりするなど、コミュニケーションのモデルを示す。	・ おすすめの国の見所や食べ物などを積極的に紹介したり、聞いたことに反応したりしている。 (観察・シート)
(Closing) 6 本時の活動を振り返る。 <一斉>	3	・ 紹介や受け答えの仕方など、振り返りの視点を具体的に示すことで、英語で伝え合うことができた達成感につなげられるようにする。	
7 終わりのあいさつをする。 <一斉> ・ “Thank you so much.” ・ “See you.”	1	・ 英語を使おうとする態度や友達と関わっている姿でよかったところを称揚する。	・ 使っていた英語表現や反応の仕方などよかったところを称揚する。



〈自分のおすすめの国を英語で紹介〉



〈HRTとALTによるAll Englishの授業〉

「おすすめ国について、積極的に紹介したり、聞いたことに反応したりする」ことをねらいとし、単元の最後にロールプレイを取り入れた授業である。児童は店員役とお客さん役に分かれ、おすすめ国を紹介し合う。そして友達がすすめてくれたコースの中から選択し、自分の旅行プランを作る活動である。

ただ一方的に相手に伝えるだけでなく、受け答えをしたり選択したりする場面を設定することで、必要感のあるコミュニケーション活動となった。また児童の英語による発話を増やすために、学級担任も日頃からなるべく英語で授業を進めるように心がけ、この授業もオールイングリッシュで行った。

### 3 おわりに (成果と課題)

これらの取組により、コミュニケーションへの意欲が高まってきた。学習アンケートではほとんどの児童が「外国語活動が好き」と答え、そのうち44%の児童が「友達と英語で伝え合うこと」が一番好きと答えている。反面、「少し苦手だと感じる活動がある」と答えた児童は18%おり、一番多かった活動は「話すこと」であった。自分の考えを話して伝えることを苦手としている児童にとって、話すこと・聞くことに特化した外国語活動は負担が大きい授業である。英語でコミュニケーションをすることの喜びを一人でも多くの児童が感じられるように、今後も指導方法の研究を進めていきたい。